

令和5年度 横浜カレッジ 自己評価報告(ダイジェスト)

1. 実施方法

自己評価については、平成25年3月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り実施。 ※別紙: 令和5年度 横浜カレッジ 自己評価表
以下、項目ごとの課題事項、年度トピックについて概要をまとめた。

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

2-1. 教育理念・目標

(1) 教育理念・目標

本校は、学校法人岩崎学園の理念である「人材育成を通じた地域社会への貢献」のもと、①感性の向上 ②高度な技術力の習得 ③豊かな人間性の涵養 ④プレゼンテーション能力の育成の4つを教育目標に掲げ、ファッション、美容、ブライダル分野の人材育成に取り組んでいる。

(2) 将来構想へ向けた体制

岩崎学園100周年を見据えて策定された中期事業計画に基づき、学園本部および姉妹校を横断するプロジェクト(広報統括委員・IR推進委員・国家試験対策・キャリア開発推進・教育環境整備等)が活動している。本校からは、若手、中堅教職員がプロジェクトメンバーとして積極的に参加し、新しい教育の立案推進に携わっている。

2-2. 学校運営

(1) 運営方針

理事会での学校運営に関する根幹の決定に基づき、3つの重点実施項目を策定し、教育活動を行った。(参照: 自己評価表 P1)

リーダーを軸に、効率的な学科運営を行う目的で昨年設置した学科別の業務グループについては、学校目標からブレイクダウンされたグループ目標が明確化され、組織的に業務遂行が行える体制となった。また、事業計画は、個人の業務計画・目標に落とし込みを行い、期首・中間・期末での振り返りを実施。成果の見える化を基準にグループリーダーと面談を実施し、教職員の育成にも傾注した。

(2) 視覚教材システムの導入と業務の効率化

昨年ビューティースタylist科で先行導入した Swipe Video(自由視点映像ソリューション)については、卒業生協力のもとコンテンツを10以上増やす事ができ、引き続き美容師国家試験の実技対策を実施。校務負担軽減ならびに業務効率化のため、年間スケジュールの策定によるタスク集中時期の明確化、標準化に着手。

(3) 働き方、健康管理

募集活動に係る休日出勤については、引き続き、振替休暇の取得が比較的しやすいように半日勤務を推奨。学内に衛生委員を置き、学園本部と連携しながら教職員の健康管理、校内環境、教室環境の改善に努めている。

2-3.教育活動

(1)教育課程の編成・実施方針

- ①教育理念・目標を具現化するためアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをベースに、「学科グランドデザイン」「カリキュラムグランドデザイン」「シラバス」を作成。学科にかかわる常勤・非常勤を含めた教員で共有し、教育内容の明確化と科目横断的な教育効果の向上を図っている。
- ②年 2 回の本校教育分野関連の業界団体・企業等の有識者による「教育課程編成委員会」や、産学連携の取り組みを通して、両グランドデザイン、シラバスの見直しを行い、産業動向や企業ニーズに合わせた教育を推進している。

(2)オンライン授業の推進

令和3年より導入したスタログ(LMS)の活用方法が成熟され、授業毎の確認テスト(小テスト)による理解度の促進や、反復し習熟度を高める検定対策に効果を発揮した。
コロナ禍前の状況に戻りつつあるが、授業運営の効率化を図るためオンラインでも十分に教育効果が得られるものについては、引き続きオンライン授業を実施する。

(3)令和 6 年度に向けた、学科カリキュラムのブラッシュアップ

令和 6 年度の展開に向け、①学生に分かりやすく、②時代の変化の中でも通用する、③学生と教務双方にとって効率的で運用しやすい等を目的にカリキュラムのブラッシュアップに着手。また、最新の技術やトレンドを存分に盛り込み実践的な授業が展開できるよう、教職員の外部研修も推奨している。

(4)産学連携・インターンシップの体系化

コロナが5類になった事を受け、対面での活動も活発化した。コロナ前より継続的に実施してきた産学連携やインターンシップも多数あり、学生には実践的な学びの場となった。

①企業提示の課題による産学連携

- ・横浜高島屋とアーリーマウンテンワークスの連携により、レザーアイテムの商品開発に取り組み、お客様の投票を経て2作品が商品化され店頭で販売。
- ・横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ、住商モンブラン(株)、(株)ダイイチとの連携により、開業 25 周年を迎える横浜ベイシェラトンのユニフォームデザインコンペに参加。R6 年 4 月より新ユニフォームの着用開始。
- ・ウェディング企業(ホテルニューグランド/葉山ホテル音羽の森)との協業による結婚式フルプロデュース
- ・株式会社 OPA、有限会社やまぎんによる「サステナブルプロジェクト Sustainable Uniform Design Award 2023A/W」にてグランプリを受賞。OPA、VIVRE、FORUS のインフォメーションにて着用された。

②現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組み

- ・乳がんの早期発見・早期治療啓発イベントにてサコッシュ作りのワークショップ開催
- ・学生によるリメイク・アップサイクル商品の展示販売を実施(ラフォーレ原宿)

③企業によるイベント協力等での地域振興への協力

- ・医療系ユニフォームファッションショーでのヘアメイク協力(日本医療マネジメント学会)
- ・地元スポーツチームの試合時の応援イベント支援(フェイスペイント等)

(5)教員研修

教職員には、専門性を高めるための研修と、教授法や学生指導に関する研修を実施し、研鑽を積んだ。また、令和4年度より、学園の制度として、教職員の自主的なキャリアアップを支援することを目的としたキャリアアップ支援制度が設置され、8名が新しい資格にチャレンジし取得した。

岩崎学園中期事業計画では、発想力豊かな人材の育成が掲げられ、そのための1つとしてVTSを取り入れた教育が計画されている。本校でもファシリテーターを中心に勉強会を実施。

2-4.教育環境

(1)施設・設備

前年度に引き続き、すべての学科で学生にノートPCを貸与。自宅でオンライン授業が受講できる体制を整えている。また、学内に個室型ワークブースを3台設置し、就職活動におけるオンライン面接等に活用した。他にアパレル業界のDX化に対応し、3Dモデリング技術が学べる環境を整備した。

2-5.学習成果

(1)内部特待生制度

本学園のすべての専門学校に在籍する進級学生を対象に「内部特待生制度」が導入され、令和5年度は13名の内部特待生を選出した。

内部特待生は、本学園姉妹校の学生が横断的に参加するアイデアソンなどのプログラムに参加し知見を広めるとともに、学校情報の発信に寄与。また、校内で行われた学校行事にも率先して参加し、他の学生の模範となっている。

(2)就職実績

進路・就職に対する支援は、岩崎学園全体の就職情報を統括的に管理する部門と教員が連携し、学生の活動をサポートしている。令和5年度も、前年度に引き続きコロナ禍による影響がある中、粘り強く就職活動を実施した。

【令和5年度就職実績】

・就職率:98.6%(就職希望者295名、就職者291名)

(3)時代のニーズに対応した学習の導入

・アパレル業界のDX化を踏まえ、導入した3Dモデリスト育成教育では、3Dモデリングを活用した商品企画並びに実店舗での商品展示を実施。また、3Dモデリスト2級・3級の合格者を輩出するなど、着実に成果を出している。今後は3Dモデリスト育成教育を内製化し、就職内定に結び付けるなど強化を推進する。

・昨年度美容の多様化に対応し、施術者向けのメンズヘアメイク検定初級を創設したが、今年度は上級を創設し美容系学生9名が受験し全員合格した。更に、卒業生にも呼びかけを行い3名が受験。事前の講習会を実施し全員合格。卒業生からはメンズに特化した検定として、プロフェッショナルになるための基礎が作れる内容であり、周囲にも受験を勧めたいと好評であった。今後は受験者の拡大を検討。

・ヘアメイク志向者の高まりや、業界ニーズに応え、令和6年度生より、新設の「ヘアメイク・アイデザイン科」については、募集活動に注力し早い段階で定員を充足。

(4) 学園横断的な学びの場と起業家マインドの醸成

多彩な専門分野を活かして、本学園7つの専門学校の学生が混成チームで取り組むアイデアソンをはじめ、起業家支援の専門家によるセミナー等が行われ、本校の学生も積極的に参加し学びの幅を広げることができた。また、学園本部主催による、キャリアセミナーや就職活動に向けたコミュニケーション講座など、希望者を対象とした多彩な講座が用意された。

(5) 資格取得・コンテスト

【資格】

学習の目標としてカリキュラムの中に計画的に資格取得を配置し、専門知識、技術の確実な習得をめざすとともに、合格により達成感を体感し、次のステップへの意欲醸成につなげている。

- ①美容師国家試験合格率 89% (実技合格率 97.4%、筆記合格率 85.4%)
- ②ビューティースタylist科で令和2年度から導入した「ヘアケアマイスタープライマリーコース」はオンライン実施のためフォローが十分でなく、合格率は67%に留まり全国平均に届かなかった。
- ③ビューティーコーディネーター科では、検定対策の一環として、マイクロラーニングを継続。
日本メイクアップ技術検定1級合格率 100%
ネイリスト技能検定2級合格率 100%
JNA ジェルネイル技能検定上級合格率 65.4%
エステティシャンセンター試験合格率 100%
AEA 上級認定エステティシャン合格率 100%
- ④ブライダル科では、国家検定であるブライダルコーディネーター技能検定3級 合格率 97%、専門学校では、難易度の高い2級合格者を100%輩出した。
- ⑤ファッションライフデザイン学科では、洋裁技術検定中級 100% 色彩技能パーソナルカラー検定モジュール1の合格 78.7% ファッション3Dモデリスト検定2級 合格率 100%
- ⑦ファッションビジネス科では、ネットショップ検定実務士補 96.6%、ファッション販売能力検定3級合格率 94.1%と全国平均を上回る結果となった。

【コンテスト】

5月以前のコロナ禍でも学生の社会的な評価を得る機会として、外部コンテストへの参加を促進。

①ファッション系

・第20回ビジネスユースコンペティションにて、グランプリならびにプレゼン賞のダブル受賞を果たした。本コンテストのエントリーは7年目となり、学生の目標として引き続き継続。

ーグランプリ：「MetaFit」

3Dモデリングと環境問題を結びつけ、ECサイトでアバターを使用し試着体験が可能な環境に配慮したマルチファッションアプリの提案

ープレゼン賞：「MetaFit」 同上

②美容系

・LUXE BEAUTY 主催「13thヘア&メイクアップフォトコンテスト2023」にて、メイクアップコースの学生がWATOSA賞を受賞。

・TONI&GUY STUDENT IMAGE OF THE YEAR 2023 フォトコンテストでグループの作品の1つが準グランプリ、ウエラ賞、ガモウ賞のトリプル受賞。

(6) 退学者

退学率 13.2%(前年 12.7%)

昨年度、退学者の半数以上が 4～6 月に発生したことを踏まえ、全学年で年度初めからこまめな声かけや早期面談を実施するなど対策を講じた結果、同時期の累計を 38%減少することが出来た一方で、持病の悪化やモチベーションの低下による出席不良等で後期に退学者が増加した。

令和 6 年度は、早期面談の実施、少しの変化も見逃さない声かけを積極的に行い、教員・学校との信頼関係を早期に構築し、非常勤講師を巻き込んだ情報共有や、授業担当以外の教員のサポートも実施しながら退学者の低減に取り組む。

2-6. 学生支援

(1) 学生相談

状況ごとにクラス担任、学科リーダー、専門のカウンセラーと複数の人間で対応をしている。

(2) 経済的な支援

・令和 2 年度より始まった「高等教育就学支援新制度」の対象機関として認定を受け、学費支援策の枠を広げた。

・給付型、貸与型と様々な支援策があり(下記参照)、また、利用者も年々増加傾向であるが、それでも経済的な苦勞を抱える学生は少なくない。

【学費支援策利用状況 人数は延数】

	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
岩崎学園奨学生制度(貸与型)	9 名	9 名	11 名
日本学生支援機構奨学生(貸与型)	348 名	322 名	369 名
日本学生支援機構奨学生の内、学費分割納入者	198 名	177 名	186 名
日本学生支援機構(給付型)	122 名	129 名	122 名
高等教育の修学支援新制度(授業料等減免)*令和 2 年度より	122 名	127 名	120 名
岩崎ともみ奨学財団奨学金(給付型)	9 名	9 名	8 名
美容系求人企業奨学金(給付型)	1 名	1 名	1 名

(3) 保護者との連携

前期、後期の成績については、学校生活や就職活動についての「保護者へのお便り」とともに書面にて通知している。また、入学ガイダンスやビューティースタylist科・ビューティーコーディネート科の保護者会、学校行事の様子などをオンライン配信した。

(4) 防災体制

激甚災害行動マニュアルを策定し運用。

スラックを活用し、台風・降雪等の荒天時の教務部判断を設けて対応。

2-7. 学生の受け入れ募集

前年度に引き続き、対面とオンラインのオープンキャンパスを併用しながら学生募集活動を展開。令和 5 年度の入学生は 436 名(前年:454 名)。

2-8. 財務

財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。

2-9. 法令順守

学校の設置や運営に関する法令は遵守しており、神奈川県からの認可を受けている。毎年、学則、カリキュラムの届出と学生数、教職員状況、卒業生状況等の報告を行っている。

個人情報保護については、本学園ホームページで公開している個人情報保護方針に則り行っている。平成 25 年 3 月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、自己評価を実施。ホームページ上で公開するとともに、学校関係者評価委員会を開催し、専門的かつ客観的な意見を聴取した。また、議事録をホームページ上で公開した。

2-10.社会貢献・地域貢献

(1)学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献

本学園の姉妹校とも連携しながら、地元プロスポーツチームや地域イベントの活動に参加し、日ごろの学習成果を披露しながら地域社会に貢献。学生主体で立ち上げたサークル活動などを通じて、社会貢献や地域貢献の活動の企画から実行までを継続的に行うことが課題。

(2)地域に対する公開講座・教育訓練の実施

高校生向けキャリア講座(仕事の学び場(4 講座 130 名)、総専協夏期講座(2 講座 33 名))の受け入れについて、引き続きコロナ感染対策を施し全て開催した。

以上